



親子の対話の積み重ねと信頼関係が、事業承継の成功要因

株式会社 たかはし式典

主な業務内容 葬儀総合サービス業

東京都墨田区八広5-32-5
 設立:1960年(昭和35年)
 資本金:500万円
 従業員:7名
 URL:http://www.t-ceremo.com

最初は会社を継ぐつもりはなかった

祖父、父の後を継ぎ、3代目社長に就任した高橋秀太さん。先代である父は、仕事の特性上365日自由になる時間がなく、家族に迷惑を掛けたと感じていたため、秀太さんの大学卒業時に「家業を継がなくてもいい、自分の好きな道を進めばよい」と告げたという。大学卒業後は一般企業へ就職し、多岐にわたる業務を経験する。それでも、幼いころから父が生き生きと働く姿を見ていた秀太さんは、将来

は家業を継ぐという意識もあったという。そして入社4年後「転職をするぐらいだったら家業を継ぎたい」と承継を決意し、先代にその意志を告げた。先代は「親として、正直嬉しかった」と、当時を振り返る。しかし、経営者になるためには、働く側の気持ちを理解した方がよいという先代の考えのもと、同業他社へ修業のために就職することに。

事前の想像より遥かに難しかった社長業

4年間、同業他社での修業により、葬祭業の現場を一通り学び、新社屋が完成するタイミングに合わせて同社に入社した秀太さん。入社後は、父と先輩従業員から、お客様との接し方や見積り方法など、現場ではわからなかった部分を見て学んでいったという。2018年4月に39歳で社長に就任したが、「修業から始まり10年間学んでいたのに、スムーズに出来ると思っていたんですけど、社長業って想像していたのと全然違う。内部体制を整えたり、銀行や他社さんとの折衝が難しかった」という。社長に就任してからは、昔ながらのやり方を見直し、見積りを細かく算出したほか、提案方法や顧客への言葉遣いなど、ワンランク上の接客を目指したという。

取締役会長
高橋 秀樹氏
(1952年生まれ)

代表取締役
高橋 秀太氏
(1978年生まれ)



1 八広駅前に式場を構え地域のランドマークともなっている

事業承継年表



後継者が承継の意思表示
同業他社で修業開始

16年前



後継者が当社へ入社

12年前



2017年
代表者交代



先代社長が伴走して引き継ぎ

1年後

BSDで「社長60歳『企業健康診断』®事業」を受診

事業承継後に事業の磨き上げを実施

改革に着手したころ、取引先金融機関の担当者から東京商工会議所ビジネスサポートデスク(BSD)の利用を薦められ、「社長60歳『企業健康診断』®事業」を受診。「単に薦められたからではなく、代表になって1年ぐらいで、まだ不安があった。自分自身の考える今後のプランに迷いがあり、事業の優先順位が付けられなかった」と

言い、現在は今後の事業計画について、先代を交えて、BSDのコーディネーターや派遣専門家と一緒に改善策を検討しているという。その甲斐もあって今後の目標も明確になり、先代も「私には出来なかったこと、やり残したことをやってくれているから、本当にありがたい」と感謝するほどだ。

時代に合った経営を実現するための事業承継

先代は、「60歳までには引退を考えていた」と言い、息子である現社長に事業を引き継いだ後は、「1、2年は責任があるから相談にのったりするが、3年目以降は、完全に任せたい。60代後半になると、時代の感覚に合わなくなってくるので、アドバイスは難しい」と語る。一方で、現社長は自身の経験を

踏まえ「代表の名前は簡単に変えられますけど、やっぱり事業承継は短期間ではちょっと無理な話。長い期間かけてやっていかないと出来ない。次代への承継についても、もう考えて進めていかないといけない」と早くも次世代の承継も視野に入れている。

事業承継を考えているみなさんへメッセージ



事業承継を上手くやっていくには、承継する側とされる側が良好な関係を保つことが一番重要だと思います。信頼関係がないと、円滑な事業承継は難しいと思います。



自分と息子は違うんだということを頭に入れてもらうことが大切だと思います。自分の息子だから信用してあげないといけないし、それが出来なかったら事業承継はできないと思う。なので、全てに関して、信頼関係が大事。

ビジネスサポートデスク担当からのメッセージ



事業承継は、経営面に加え株式や資産の引き継ぎ等、時間がかかります。しかし、後回しになっている事業者様も多く、引継ぎの完了前に予期せぬ事態が起きてスムーズに進まない事態も想定されます。今回のたかはし式典様のように、早めに各種引き継ぎを計画的に進めることが大切です。